



## かけがえのない命だから。 一人ひとりの「生きる」を守りたい

市制50周年記念事業 ◆創作劇「沙羅双樹 生と死の迷路をたどる旅」(劇団あらむ) ◆シンポジウム「かけがえのない命を守るために～今私たちにできること」(2/22市民館ホール)

「なぜ、ユキオは死んでしまったのだろう」  
明るく人気者だったユキオが突然自殺し、残された家族や友人が、悩み・苦しみながらも死を受け入れ、乗り越えていく…。

2月22日、自殺対策事業として、青少年をはじめさまざまな年齢層、立場の人たちに、心の健康問題や自殺予防について正しく理解してもらおうと、自殺をテーマにした創作劇及びシンポジウムを開催。

若い頃から命の大切さを感じてほしいと、市内中学校1・2年生が招待されました。

今にも雨の降り出しそうな空模様の中、会場は1,050人という、立ち見をしていただかなくてはならないほどの市民の皆さんでいっぱいになりました。

劇を見た人のアンケートには、「小さなサインに気づきたい」「身近に起こりうる深



いつも明るく周囲に笑いをふりまくユキオが一人悩み、誰にも打ち明けられず、生と死の間をさまよう姿を描く

刻な問題」「命は自分一人のものではなく、かけがえのないもの」などの感想が寄せられました。

また、シンポジウムの中で、「自殺した人たちは、本当は、『生きたい』と思っていたのに生きられなかった人ではなかったか」との意見が出され、一人ひとりの「生」を私たちがどのようにして支えていけるのか、考えさせられる場となりました。

平成10年以来、自殺で亡くなる人は11年連続で3万人を超えています。交通事故で亡くなる人の5倍の数です。

竹原市では、一人ひとりが「生きやすい」まちを築いていくために、皆さんとともにこのテーマについて引き続き考えていきます。

## そのとき、何ができるか 地域で課題を共有する



積み土のう工法



倒壊家屋救助訓練



煙体験訓練



応急救命訓練

3月8日、吉名町協働のまちづくりネットワークの最初の事業として、吉名小学校グラウンドで自主防災訓練が行われました。

安心・安全なまちづくりを進めようと実施したこの訓練には、警察署や消防署職員の指導のもと、町民・消防団など約250名が参加しました。

AED(自動体外式除細動器)を使った応急救命訓練を体験した吉名中学校1年生の原野翔くんは、「やってみる前は自分でできるのかと思っていたが、意外に簡単だった。実際にその場でできるか不安だが、よい経験になった」と話してくれました。その他、「消火栓の場所やその仕組みを今まで知らなかった。普段見ることがないので良い機会になった」「知識だけではなく実際に体験でき勉強になった」などの声が聞かれ、訓練を通して参加者の防災意識も一層高まったようでした。

この日、他地区から見学に訪れた方は、「地域のまとまりを感じた」「今後は、自分たちの地域でも同じような方法で訓練をやってみよう」と、意欲をみせていました。

## 本場の舞台にふれて 豊かな表現力を

2月3日、東野小学校で文化庁主催の「本物の舞台芸術体験事業」が開催。舞台本番1週間前に行われた実技指導では、表現力とともに、子どもの頃から努力し続けることの大切さを教わりました。



## 学びの成果 公民館発表

2月29日・3月1日、竹原中央公民館まつりが市民館で開催。生涯学習を通じた地域のふれあい拠点となる公民館で、年間を通じて各団体が活動。その成果が披露されました。



## 寄り添ってくれて ありがとう

3月11日、市内4中学校で卒業式が開催され267名が巣立ちました。竹原中学校では答辞の中でお世話になった先生方へ感謝の意が述べられました。大きな声で立派に合唱する子どもたちの姿に先生の目は涙でいっぱい。



## 広島空港周辺地域が連携 魅力体感バスツアー

3月19・20日の両日、広島空港周辺地域による広島臨空広域都市圏体験バスツアーが開催。竹原市と大崎上島町をめぐる海岸コースでは、竹の館で竹細工を体験。かわいい風車ができました。



## 賀茂川水源の景観を守る

3月22日、仁賀町の水源の里大谷を守る会が、賀茂川源流付近に28本の桜の木を植樹。守る会は、高齢化が進み担い手が減る水源地域の景観を地域全体で守ろうと、昨年約40名の有志により発足。



## 竹原高等学校定時制課程 60年の幕を閉じる

竹原高等学校定時制課程が3月末をもって閉課程するにあたり、3月7日、閉課程記念式典が開催されました。

竹高定時制課程は、昭和23年、竹原工業高校と竹原高等女学校が合併し竹原高等学校となったとき、昼間働きながら勉学を志す青少年のために設置され、以来60年間にわたり800名近い卒業生を社会に送り出してきました。応募数が年々減少する中、3年前に募集を停止。この度、その伝統に幕が閉じられました。

夜の学舎に集う生徒たちを温かく見守ってきた定時制の灯。同課程の歴史とともにその文字が永久に記念碑の碑文として刻まれました。



## 地域の中へ 高専大学連携事業

3月1日、呉・芸南地域高専大学連携センター主催の市民支援セミナー「イキイキ健康・モリモリ元気・ラクラク安心」が、ふくしの駅で開催されました。

このセミナーは、広島商船高等専門学校と呉工業高等専門学校、呉大学の3校が自治体と連携して行う人材育成、共同教育事業の一環で、地域貢献の一つとして開催されたもの。会場では、老後の備えとしての相続、遺言等の手続き方法や脳卒中の早期発見方法に関する講演、体力測定などの実技指導などが行われました。